



松山創生人口100年ビジョン・先駆け戦略とは。

策定の背景

人口減少社会を迎えた我が国では、生産年齢世代の減少による経済規模の縮小と高齢化の進行による社会保障費の負担増が懸念され、人口の安定と年齢構成の平準化に向けた施策展開が求められています。

そこで、国では、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、それに基づき、「まち・ひと・しごと創生本部」を設置して、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定めました。全国の自治体でも、同法に基づき、「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に取り組むこととなりました。

松山市でも、平成22年以降、人口減少が始まっており、平成28年1月に「松山創生人口100年ビジョン」と「松山創生人口100年ビジョン先駆け戦略」を策定・公表しました。

松山創生人口100年ビジョン(松山市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン)

松山市の人口等の現状を分析し、人口等に関する市民の意識や希望などを明らかにして、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです。

当該ビジョンは、現在から2060年、更には2110年を視野に入れて策定し、人口減少対策としての効果的な施策を企画立案する上で、重要な基礎として位置付けています。

松山創生人口100年ビジョン先駆け戦略(松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略)

「松山創生人口100年ビジョン」を踏まえ、地域の実情に応じた5か年度(2015年度～2019年度)の目標や施策の基本的方向のほか、具体的な施策をまとめたものです。

5つの基本目標に基づく具体的な施策を体系としてまとめ、各施策ごとに、重要業績評価指標(KPI)を設定し、その達成度により効果検証・改善を行う仕組み(PDCAサイクル)を構築し、推進状況を管理することとしています。

※「松山創生人口100年ビジョン・先駆け戦略」の本文は、下記ウェブサイトにあります。

<http://www.matsuyama-life.com/>

発行 松山市
 編集 松山市総合政策部企画戦略課
 〒790-8571
 愛媛県松山市二番町四丁目7-2
 電話：089-948-6943 FAX：089-934-1804
 E-mail：jinkotaisaku@city.matsuyama.ehime.jp
<http://www.city.matsuyama.ehime.jp>

印刷 セキ株式会社

平成28年2月発行



Contents

- ・松山が、なくなる日。
- ・今日から、あなたから。松山×ライフが始まる。
- ・100年後、松山は、生き続ける。
- ・松山創生人口100年ビジョン・先駆け戦略とは。

松山市

松山がなくなくなる日

ほどよく都会で田舎の暮らしやすい松山

そんな日常は今日も明日も続いていく・・・

でも、私たちは、今決して目を背けてはならない問題に直面しています。

「日本が人口減少社会を迎えた」ことを意識していますか。

また高齢社会が現実のものとなり、少子化が40年間にわたって著しく進んでいることを

あなた自身、そして地域社会の問題として、真剣に考え、行動を起こしていますか。

現状が続けば、松山市の人口は100年後には16万人になってしまう・・・

しかも高齢化率40%超を伴って・・・

そうなれば、社会保障費の負担は増えるのに、経済は縮小し、

街や市民の暮らしから活気が消え失せて、便利で暮らしやすい松山はなくなってしまうかもしれません。

そうならないために、松山の人口減少に歯止めをかけなければならないのです。

でもその歯止めには、いろいろ手を尽くしても、一世紀かかることが予想されています。

だから松山市は、人口の100年ビジョンとその先駆けとなる戦略を創りました。

名付けて、松山創生人口100年ビジョン・先駆け戦略。

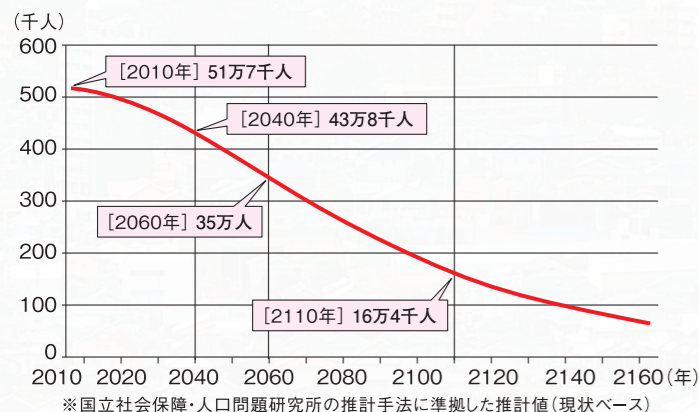
松山市は市民や事業者、団体等の皆さんと共に、

100年をかけてこの大きな課題に挑戦します。

さあ、その解決に向けて、ともに知恵を絞り、行動を起こしましょう。

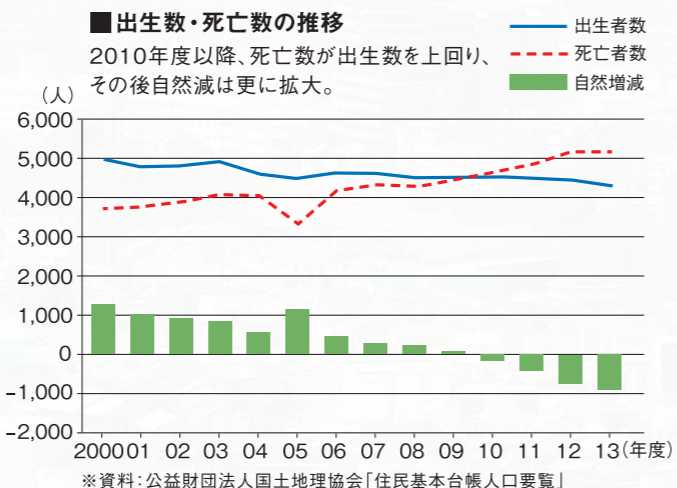
■ 松山市の人口の将来予想

2060年で35万人、2110年で16万4千人まで減少。



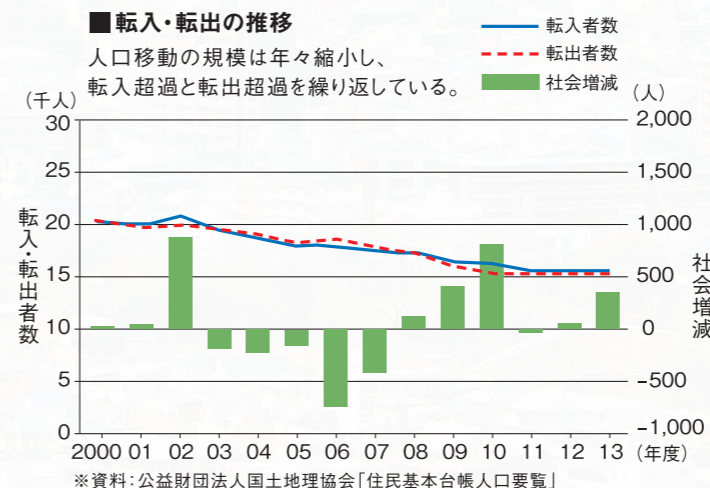
■ 出生数・死亡数の推移

2010年度以降、死亡数が出生数を上回り、その後自然減は更に拡大。



■ 転入・転出の推移

人口移動の規模は年々縮小し、転入超過と転出超過を繰り返している。



■ 合計特殊出生率の推移

近年は上昇傾向にあるが、愛媛県や全国の水準よりも低い。本指標が2.07を超えなければ、人口減少の歯止めはかからないとされる。

